

【令和2年度 学校関係者評価書】

学校名	奈良市立済美小学校 印
評価者名 (学校運営協議会委員または学校評議員)	<p>会 長 池口光隆</p> <p>副会長 片岡祥晃</p> <p>委 員 巽舜一、長岡忠保、鹿川みち代、藤岡忠明、小倉英雄</p> <p>杉本昭二、足立澄子、青木たかみ、中矢好實、辻井保弘</p> <p>中井健太郎、田中宏一、上田和男</p>
学校関係者評価実施日	令和3年2月26日

大項目	中項目	目標達成状況及び 取組状況について	学校の取組の 適切さについて	教育活動、学校経営の 改善方針について
I 教育活動に関するもの	<p>教育目標・教育計画</p> <p>教科指導</p> <p>道徳教育</p> <p>特別活動</p> <p>総合的な学習の時間の指導</p> <p>人権教育</p> <p>生徒指導</p> <p>キャリア教育</p> <p>特別支援教育</p> <p>体力向上推進</p>	<p>B評価となった4つの中項目について</p> <p>(3) 道徳教育については2ヶ月間の休校による教科授業時間の確保が急務となったため不十分となったきらいがある。</p> <p>(4) 特別活動、(10) 体力向上推進については新型コロナウイルスの感染拡大防止のために制限がかかり十分な活動ができなかった。(6) 人権教育については様々な取組みを進めたのだが、保護者や地域の情報発信という点が弱かったためと考える。</p>	<p>2ヶ月間の休校期間があった中で、教科指導に力を入れ、必要な指導を実施したことは評価できる。</p>	<p>新型コロナウイルスについては、来年度も予断を許さない状況なので、その中でできることを(ICTについての積極的な活用などもふくめて)しっかりと考えておいてもらいたい。</p>
II 学校経営に関するもの	<p>組織運営</p> <p>研究・研修</p> <p>安全管理</p> <p>保健管理</p> <p>小中一貫教育</p> <p>地域との連携</p> <p>施設・設備</p> <p>情報管理</p>	<p>(5) 小中一貫教育、(6) 地域との連携についてはB評価であった。新型コロナウイルスの感染拡大防止のために制限がかかり取組みを進めることができなかったことが大きい。来年度も同様の状況が考えられるので、手立てを講じていく必要がある。</p>	<p>地域との連携については、学校運営協議会の開催時に学校の様子を参観できるようにするなどの工夫があった。</p>	<p>学校運営協議会(地域住民)としては、新型コロナウイルスの感染拡大防止について配慮しながら、教員とともに子どもたちに積極的に関わっていききたい。そのための方策についてともに考えていききたい。</p>

その他の学校に関する意見

・保護者アンケートでは、「身の回りの片付けをする習慣がついている」という項目の肯定的評価が6割を切っているという状況がある。これについて学校としてどのように考えているか。
→学校としてもふだんから指導はしている。にもかかわらず、このような結果が出たということで、より良い指導法を検討していかなければならないと考えている。

・不登校の子どもの状況についてはどうなっているのか。
→6月の学校再開後、1学期には前年度まで不登校傾向にあった児童が元気に登校してくるという状況が多くあった。学校へ行かなくてもよいという期間が3月から5月までの3ヶ月もあり、その間にエネルギーがたまっただのではないかと考えている。ただ、夏休みが3週間しかなかったこともあり、2学期以後はまた増えつつあり、対応を検討しているところである。

・高額の寄付金について、使途等はどのように考えているのか。学校として子どもたちに有益な使い道を考えるような取り組みをしてもらいたい。
→奈良市教育委員会と相談して考えていきたい。学校運営協議会のご意見は伝えておく。